草の根ニュース　79号　2014年2月28日　基地なくすツアー　号
自分の国・憲法は自分で守ろう、軍事力ではなく憲法力と国民の団結力で。**占領69年**の2014年を 主権回復へ始動の年に
「平和的で責任ある政府が樹立されたとき、連合国の占領軍は、直ちに日本国から撤退しなければならない」ポツダム宣言

～ 沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動 ～

草の根ニュース

■住所（東京）　:〒150-0042
東京都渋谷区宇田川町19-5 山手マンション1001
■沖縄連絡先　:池宮城紀夫（弁護士）
沖縄県那覇市樋川1-16-38　那覇第1法律事務所
■電話・ファックス　: 03-3461-5758　090-4175-2010(平山基生)
■メール　: kusanone@world.ocn.ne.jp
■ホームページ　: http:// www.kusanone.org
■郵便振替口座　: 00190-5-611535（主権回復カンパ 随時 大歓迎）

沖縄平和の旅に 50 人参加

稲嶺ススム名護市長を励まし、辺野古基地反対で再選に貢献

（2013 年）12 月 13 日から 16 日、沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動が提案し、草の根運動事務所所在地の東京都渋谷区で活動している国政革新をめざす渋谷懇談会が企画した沖縄平和の旅が行われました。渋谷革新懇の他、基地のない平和な沖縄をつくる八戸の会（青森県）からの 20 名、多摩女性学研究会、テルデの会（第 73 回ピースボート 9 条の会）、鎌倉九条の会などが参加し、50 人の参加で行われました。（**写真**は、辺野古［へのこ］のキャンプシュワブ基地フェンス前で参加者の一部）

沖縄・日本の歴史を左右する重大な名護市長選挙を一カ月後にひかえ、「陸にも海にも空にも米軍基地はいらない」とい言う政策を掲げた稲嶺ススム名護市長候補を激励することも平和の旅の大きな目的の一つでした。

旅の 2 日目、宮森小学校訪問の後、稲嶺ススム後援会事務所に一行は到着し、激励色紙 3 枚とカンパを手渡しました。

あいにく、稲嶺ススム市長は、市の障害者大会と日程がぶつかり、会うことはできませんでしたが、市長夫人が代理であいさつしました（**写真**）。夫人の隣で旅参加者から受け取った色紙を持っている後援会幹部神山正樹さんは、元自民党支部の幹部だったということです。この方がたが、4 年前稲嶺市長にお願いして市長候補になって頂いたと話していました。

（２頁へ続く）

辺野古キャンプシュワブの前で平和の旅参加者

辺野古新基地に反対の
稲嶺ススム名護市長大差再選！

名護市長選は1月19日投開票され、新基地建設阻止を掲げた無所属現職の稲嶺進氏（68）＝社民、共産、社大、生活推薦＝が１万9839票を獲得し、「移設」推進を打ち出した無所属新人の末松文信氏（65）＝自民推薦＝に4155票差をつけ、再選。米日政府への大打撃、私達へ大きな励ましです。

必勝の色紙を手に。稲嶺ススム夫人と後援会幹部

旅の第 1 日目。那覇空港に到着した一行は、上空を飛ぶ米軍ジェット機の轟音にまず驚かされました。バスに分乗した一行は、1972 年まで続いた米軍の軍事占領下で、軍用道路 1 号線として有名（悪名?）だった現在の国道 58 号線を北上していきます。那覇市の北側には、かつては米軍基地であった天久が「新都心」として、繁栄している所を通り、嘉数（かかず）に向かいます。嘉数高台は、沖縄戦で米軍と日本軍が激戦を交えた所です。ここからは、普天間基地が一望できます。平和ガイドの与儀さんと横田さんが、「世界一危険な」と言われる普天間飛行場を解説します。（**写真**）

沖縄平和ガイドの与儀さん（左）と横田さん

与儀さんは、元社会科教師で、平和ガイドのナンバーワンと言われています。横田さんは女性で、不屈館（後述）の職員をしながら、平和ガイドもしています。女性平和ガイドのナンバーワンの一人です。

普天間基地が、学校や住宅などがある市街地のど真ん中にあること、危険で日本の航空法ではとうてい許されないし、飛行場の必要条件を満たしていない。しかし在日米軍地位協定によって設置されています。米軍の規定にも反しているが、日本であるため米軍は基地に必要な安全要件も守らない。**日米両国の脱法行為の典型**であり、決して許されるものではないことが解説されました。基地にも近づいて、「未亡人製造機」と言われるほど事故が多いオスプレイが駐機している状況をしっかりと目撃。その後、2004 年イラク侵略に使われた米軍の巨大ヘリが墜落した沖縄国際大学の墜落現場をバス車内から見学しました。

続いて、嘉手納基地を、「安保の見える丘」から視察しました。嘉手納基地は 3700m の滑走路が 2 つある極東最大の米空軍基地です。ツアー参加者が観察している目の前を、何機もの軍用機が離着陸を繰り返しています。

嘉手納基地を見終わった後、一路沖縄市に向かいました。沖縄市は、かつて沖縄県が、米国のベトナム侵略戦争の基地として使われていたころ、コザ市と呼ばれ、嘉手納基地の米兵が我が物顔に徘徊していました。

平和の旅一行は、ここのホテルに宿泊。夕食のとき参加者はみな感想として、旅第 1 日からだけでも受けた衝撃を話していました。

ツアー参加者の井上さんの誕生日を祝う

12 月 13 日ちょうどこの日が、25 歳の誕生日に当たる参加者の井上敬亮さんの誕生日をみなで祝いました。（**写真**）

旅の 2 日目、1959 年 6 月 30 日米軍ジェット機が墜落した、宮森小学校を訪問しました。この事故では、小学生 12 名と住民 7 名が死亡しました。

ここで、当時教師であった豊濱光輝さんから話を聞きました。豊濱さん（**写真**）は「命と

米軍機墜落事件を語る元教師

平和の語り部－NPO 法人『石川・宮森６３０会』会長」をつとめております。豊濱さんが涙ながらに語った石川・宮森ジェット機墜落炎上事故の話は、すべての参加者の心を打ちました。豊濱さんは、「基地はどうしても無くさなければならない」と振り絞るように訴えました。

この後、名護市辺野古（へのこ）に向かいました。辺野古は、巨大基地を建設しようとしている現場です。

最近、海辺にまで続いているキャンプシュワブ基地と民間地の間に、かつては、鉄状網だけだった所にがっしりしたコンクリートの土台の上にしっかりした金網を張ったフェンスができています。そのフェンスの前で、名護市議会で稲嶺市政与党の議員から 1996 年以来闘いが続いていることの説明を受けました。

辺野古を発ち、冒頭に述べた、稲嶺ススム名護市長後援会事務所を訪れた後、「美（ちゅ）ら海水族館を見学。この水族館は世界でも有数のもので、一見の価値があります。

瀬長亀次郎の資料を展示する「不屈館」

その前、八戸グループ 20 名は、美ら海水族館を省略して、一路、那覇市若狭にある「不屈館」［**写真**］に向かいました。「不屈館」は、「瀬長亀次郎と民衆資料」という副題が付けられた資料館ミュージアムで、1945 年以来の米軍占領下で、不屈にたたかった瀬長亀次郎を中心に、彼をはじめとする沖縄民衆と支援した本土民衆の闘いの資料も含めて、歴史的資料がぎっしり詰まった資料館です。昨年初めに開館して日も浅く、民主勢力にもま

だ知られていない、必見の場所です。ここで、「沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動」共同代表で、2万2千人の原告を擁する史上空前とも言うべき嘉手納爆音訴訟団の弁護団長や、本号に寄稿している、「辺野古埋め立て差し止め訴訟」弁護団長など民衆の裁判闘争の先頭にたって来た池宮城紀夫弁護士からあいさつをして頂きました。

八戸グループは、既に13回?も沖縄平和ツアーを実施しています。リピーターが多いので、今回は沖縄本島はそこまでに省略して、与那国島に翌日向かいました。しかし、悪天候のため、飛行機が島まで飛行できなかったため、宮古島での観光に切り替えました。与那国島は日本最西端の島で、台湾に近く、自衛隊駐留で、小さな島は揺れ動いています。しかし、この島は、退職後移住した人の言葉を借りれば、「世界で一番美しい」島です。

那覇市では、国際通りから入った所にある、牧志の公設市場が有名で、一行はそこで夕食を自由にとりました。

第3日の2月15日には、首里城から南部戦跡へ行き、沖縄戦で避難したガマ（轟壕）に入り、沖縄戦のすさまじさを体験しました。また、ひめゆりの塔、約20万の沖縄戦犠牲者がその氏名を刻まれている「平和の礎（いじ）」や平和資料館を見学しました。これらは、日本国民必見の場所です。那覇に戻り、琉球舞踊を見ながら夕食をとりました。

最終日の12月16日は、沢山の疎開児童が海に亡くなった、対馬丸を記念する「対馬丸記念館」「泊外人墓地」「識名園」「金城石畳道」などをオプショナルツアーで見学しました。

3泊4日で、この割安のツアーは、ユーラスツアーズ社に担当して頂きました。

沖縄平和の旅は毎年催行されるべきもので、もっともっと多くの本土国民が、日本は属国状態であることを自分の目で見届けることができること、沖縄県の自然と歴史と文化が素晴らしいもので、米軍基地がこの美しい地域にガンのように食い込んでいること、本来基地というガンはあってはならないものであることを感じとって頂きたいものです。
そして、米軍基地は、戦争戦力条約に基づく米軍地位協定による「全土基地方式」のもと、日本全国に203基地も存在し、基地がある日本の土地は沖縄県と同じく、自然、文化、歴史すべてにおいて素晴らしいものであり、そこに外国軍の基地があってはならない所であることを、日本全国の基地所在地の平和の旅で体感することが重要だということです。

市街地のど真ん中普天間基地にたたずむオスプレイ